

# 会員交流広場

## ～皆様からのメッセージの一部を紹介～

今年度の会員交流会(7月19日(水)開催)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ(<http://www.t-hito.or.jp>)に掲載させていただいております。

新幹線が開通し、東京から伺うのに便利になり、嬉しく思います。しかし、これまで東京から近くなると駅前が東京と同じ顔になり、街が東京化して来て、寂しい気持ちになってしまうことが多くありました。富山の良さが侵食されないように、皆さまよろしく願いいたします。

古稀を迎え、振り返れば関西に出て来て半世紀を超えました。大阪・茨木市の山間部で森林保全ボランティアをやっています。茨木の里山を見て思うのは、やはり故郷の田畑であり山々です。

田植えの頃の水田に映る僧ヶ岳や立山連峰。夏、宮野山から見る稲穂の上を吹き渡る風に揺れる緑黄の絨毯。その向こうにきらきら光る富山の海。

私にとって、故郷の情景は今でも日本一です。(黒部出身)

道路より街並みを、田園景観の保全を大切にしていきたい。

“田園発港行き自転車”ではないが、県全域を自転車で廻れるようにしたらいかかな。41号の旧道の利用など、コンクリートで固める開発はダメ。

神通川の土手を中学校の帰り道歩き、見上げた冬の立山連峰は神々しさを溢れていました。

人生の最期は、立山連峰が見える地で迎えたいと思っています。

中学校の同期の仲間と会うたびに身近に感じます。

富山県の魅力は、何といても、美しく大きな自然と、そこに育まれた新鮮な食材、そして素朴な人情です。

数奇なコト、モノに走らず、その王道を行ってほしいと切望します。

幼少の頃「越中富山の薬屋さん」と歌いながら御馴染みの薬箱を父母が使っていました。海を渡り、父の仕事の関係で旧満州長春から奉天まで、薬は我が家の大切なものでした。

あれから年を経て、引き揚げでの凄まじい体験と望郷の念、辿り着いた内地では皆様とも同感できる戦後の生活を味わいました。

父の生家が軽井沢でしたので、気候が似ていたのが幸いし、自然の中で育ち、上京してから富山へ新幹線に乗車できたのは夢の中の夢。とても幸せでした。在京の富山出身の方も友人におります。いつまでも交流が続くことを望んでおります。

富山では、無名の一膳飯屋でも、最高のお魚料理が出て来ました。この心意気が嬉しく、心に焼き付いています。

最も純粋な形で残っている富山の味に接した時、富山県を身近に感じます。それは、イカの黒作りと、かぶら寿しです。全国を歩いて、似た様な食べ物はありますが、富山のイカの黒作りと、かぶら寿しは絶品です。この本物の味は富山県にしかありません。

熊本地震からやっと1年2か月が経ちました。まだまだ揺れますし、やっと解体が始まった建物も沢山です。私方はお陰様でほぼ日常になり、インテリアデザイン、講演、セミナーなどの仕事も戻りつつあります。

今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

東京駅にシロエビのお店ができました。富山がだんだんメジャーになっていきますね。うれしいことです。

「我が町 ふるさと富山 “山あり、海あり、そして何より人情あり”」

先日、久しぶりに帰郷しましたが、子供の頃に育った遊んだ町が小さく感じ、通る人もなく、かつての賑わいもなく、大変寂しく感じました。

でも、故郷富山は永遠の「ふるさと」です。

「夢物語」

水力発電量日本一の富山県。地熱、風力等、他の自然エネルギー開発に力を入れ、自然エネルギー県としてアピールできないものでしょうか。

未来のカタチを目に見えるものにできれば富山の存在感を大きくできると思います。

昨年、富山市議会は、いち早く全国的に有名になりました。二度とこんなことが起こらない様に。